



かつみけんじ  
**勝見健史**

小学校教員養成特別コース  
准教授

このページでは日本学術振興会の科学研究費補助金(平成23年度から科学研究費助成事業に改称)を受けた研究を紹介します。科学研究費補助金とは、すべての分野の「学術研究」を格段に発展させることを目的に、独自の・先駆的な研究に対して助成を行うものです。基盤研究、挑戦的萌芽研究、若手研究などに分かれており、基盤研究は1人または複数の研究者が共同で行う研究が対象。研究期間は3~5年です。

# ポर्टフォリオを活用した 小学校教員の「鑑識眼」育成プログラムの開発

(平成22~24年度科学研究費補助金・基盤研究に採択)

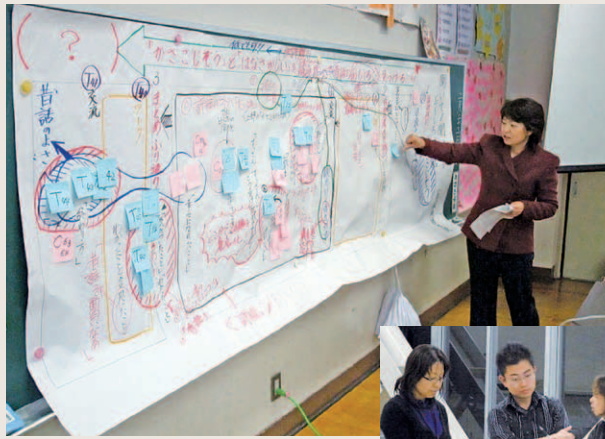
**弁**

護士、看護師、医師、建築士、栄養士、カウンセラー、介護福祉士、学芸員等々、世の中のさまざまな専門家は、従事するそれぞれの仕事に必要な専門的の力量を持っています。同様に「教える専門家」である学校教員にも独自の専門的の力量があります。とりわけ、小学校教員には、特定の分野における特化・細分化したスペシャリストとしての専門性だけではなく、子どもと生活を共にしながら丸ごと成長を支援していくというジェネラリストとしての専門性が不可欠です。

私はこの研究で、小学校教員の専門的の力量として「鑑識眼(Educational Connoisseurship)」に焦点を当てました。「鑑識眼」とは、子どもが見せる複雑で偶然性を潜めた活動の意味や価値を総合的・即興的に解釈し、臨機応変に適切な指導を行うために教員に不可欠な能力です。特に、授業は固有の子どもの

活動の姿の意味をコンノイサーに解釈しながら適宜必要な働きかけを行っていく実践的な思考の連続であり、一つの授業は「鑑識眼」が発揮され

↓授業を固有のストーリー、ドラマとして捉える授業研究会



↑立場や経験、年齢の異なる教員同士が「みえ方」を重ね合います

た教員の「みえ方の総体」であるといえます。このような「鑑識眼」は、本来、熟達教員と若手教員が日常的なコミュニケーションを通

もを質的総合的に捉える能力が十分に涵養されなままキャリアを深める教員が増加し、子どもの複雑な問題状況に対応する力量が低下する

して無意識に共有・継承してきた経験的な力量でした。しかし、近年、熟達教員が大量退職し若手教員が急激に増加していく過程で、専門職として子ども

危険が生じてきたのです。この研究では、まず、授業研究における熟達教員と若手教員との「鑑識眼」の相違、つまり、同じ子どもの事実に対する熟達教員と若手教員との「みえ方」の違いに着目しました。そのために、授業研究会において、参加教員相互の「みえ方」が質的に吟味されるような運用方法を明確化しました。いくつかの事例研究を通して、若手教員に比べて熟達教員には、例えば①重層的な解釈②関係的な解釈③価値的な解釈④物語的な解釈などの「鑑識眼」の特徴が焦点化されました(表)。

特徴	内容
重層的な解釈	ある事実を同時にできるだけ多様な複数の視点から解釈しようとする
関係的な解釈	ある事実を他の事実と関係づけて解釈し、新たな意味を見いだそうとする
価値的な解釈	ある事実を学習目標や教育的なねらい・願いに照らして解釈しようとする
物語的な解釈	時間・場所・対象が異なる複数の事実を文脈化し、事実を児童固有の成長の物語の一部として解釈しようとする

しながら交流し合うためのツールとして、ポर्टフォリオを活用します。ポर्टフォリオは若手教員の自覚的・自己修正的な成長を促進するものとして機能するからです。これらの研究をさらに進め、若手教員が熟達教員の「みえ方」を自らの実践に重ねながら、「鑑識眼」を洗練させていくための具体的な内容と手順を提起したいと考えています。